

業務自動化市

データを1カ月当たり15人で入力していた。導入後は作業時間が16分の1に減少した。19年度は還付金請求など介護保険の3業務にも広げる。

同港区は18年9月に、コミュニティバスの無料乗車券の発行手続きで、人工知能(AI)による光学式文字読み取り装置(AI-OCR)を取り入れた。手続きの申請書を読み取り自動処理できる。18年度はRPA業務を7業務に広げ、前年度より1900時間の業務時間を削減できた。19年度は10業務を追加する。

導入に向けた実証実験も相次ぐ。足立区は2月まで

作業時間削減で拡大 △東京・葛飾区 ▽市川市など 導入に向け実証実験

AIによる読み取り装置を実験した。横浜市、東京都町田市、千葉県市川市など6市も同装置の実用性を検証。東京都国分寺市もデータ転記などで実験中だ。

市区が抱える定型業務の中で、どの業務がRPAに向くのかは職員でもわかりにくい。導入への地ならしが欠かせない。

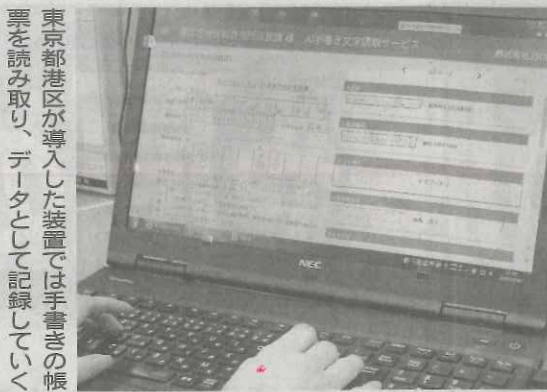
港区は部長級の職員全員にAIやビッグデータなどの活用法について研修した。「課ごと」の業務を自動化できるか考えてもらう(情報政策課)狙(多摩支局長 一丸忠晴)

自治体では「年度末の各種届け出など、業務が集中する」(港区)ため、RPAによる効率化に期待が集まる。コージェントラボは全国約30の自治体から実験をしたいとの声が寄せられる。今後も首都圏の市区を中心にRPA導入は広がる。

書類や伝票など手書きの文字の入力、データの移し替えや抽出といった

中小企業への導入も進み22年度には802億円まで拡大するとみている。

ジェントラボ(東京・渋谷)によると、記入幅が5ミリ以下や斜めに書かれた文字は精度が落ちる。記入幅を広げケイ線を入れるなどの工夫がある。同政策経営課は「導入する場合は、帳票のレイアウトを変える」となる」とみる。



RPA導入に取り組んでいる主な首都圏の市区

| ▼導入済み | |
|------------|---|
| 東京都葛飾区 | 出金伝票管理データベースと源泉徴収データベースのデータを連携させ自動転記 |
| 東京都港区 | 超過勤務者リストの出力業務で自動転記、コミュニティバスR導入 |
| ▼導入予定、実証実験 | |
| 埼玉県新座市 | 2019年度に導入予定。業務を選定中 |
| 東京都東村山市 | 19年度に住民税の給与所得者異動届出書など4業務でAI-OCR、自動転記を導入 |
| 東京都足立区 | 保育施設利用申込書データ入力などでAI-OCRの実験 |
| 東京都国分寺市 | NTTデータと介護保険認定申請など73帳票でAI-OCRの実験(茨城県つくば市、福岡市なども参加) |
| 東京都国分寺市 | NECとスポーツ施設予約台帳作成などで自動転記、AI-OCRの実験 |
| 千葉市 | NTT東日本と住民税の給与所得者異動届出書などの入力でAI-OCRの実験 |
| 東京都多摩市 | 住民税、児童手当関連業務などで自動転記、AI-OCRの実験 |

鈍化

総務省が12日発表した前年(0.16%)に比べて人口推計によると、2018年10月1日時点の千葉県人口は625万5千人と前年同期に比べて0.14%(9000人)減少した。5年連続で人口が減少している。県内への転入者が転出者(24%)と前年(0.21%)

と上昇

が進むなか、若いファミリー層を中心とした転入者が人口増を支えている。千葉県の住民基本台帳を基に集計している市町村別の人口をみると、17

イン競技会場となった一宮町(1.2%増)などの伸びも目立つ。県全体の人口増が続いている半面、高齢化は着実に進んでいる。人口に占める65歳以上の割合は

千葉県内の研究機関や企業、介護施設など計12団体が連携し、認知症ケアの研究とその普及を図る「認知症介護イノベーション」を設立した。産学連携により研究機関の専門性と介護現場でのニーズを融合し、介護支援者の負担軽減につながる福祉機器やサービスの開発に取り組む。

参加するのは、千葉大学や東京電機大学の研究機関のほか、千葉県内や東京都内の民間企業、福祉事業者など。事務局は千葉市産業振興財団に置く。認知症を含む高齢者の介護支援技術などについて、現場のニーズに

介護支援者の負担軽減へ 産学連携、システム開発

沿ったシステム開発を進める。認知症患者の生活の質向上を目的として、研究機関と地域の中小企業、介護事業者が連携して患者の家族や介護者の負担を減らす「CHIBABAモデル」の構築を目指す。

千葉県内では少子高齢化に伴い、認知症患者の増加や介護支援者の不足が深刻な課題となっている。



住民交流の場 蘇我に開業

戸建て住宅建設やリフォームを手がけるネクストワンが、千葉県市川市に「蘇我」を開業する。地域貢献のほか、同社の主力商品である、子育て中の母親の意見を取り入れた「ウィズママの家」の名前を冠することで、潜在的顧客の発掘や宣伝にもつなげる。

市臨海部にある大型商

業区域「ハーバーシティ蘇我」内の物販施設を改装して利用する。平屋建てで延べ床面積は218平方メートル。20人収容のセミナールームや、飲食物を持ち込めるスペースを設け、近隣住民などが気軽に集まれる場所にする。遠藤一平社長は「地域のコミュニティに、顧客と接する機会を増やしたい」と話している。

13、14日にはオープンイベントとして、オリジナルアロマグッズの手作り教室や子供向けのチャリティー大会などのイベントを無料で開く。

きょうか
会期は5月26日まで(5月7日は休館)。会期中、企画展に関する講演会や市民美術講座などを予定している。6月以降、静岡市美術館や大阪市立美術館を巡回する予定。